

第4学年 国語科

教科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「国語への関心・意欲・態度」
 - ・話し合い活動などで、内容を深めていく楽しさをより多く経験させ、さらに意欲を高める。
- 2 「話す・聞く能力」
 - ・相手や目的に応じ、調べたことなどについて相手を意識して話す力、友達の意見を聞き、それを踏まえた上で自分の意見をもつことができる力を伸ばす。
- 3 「書く能力」
 - ・相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わりやすいように考えて文章を書く力や、始め・中・終わりを意識して文章を書く力を伸ばす。
- 4 「読む能力」
 - ・文章を読むことが好きになるように学習を進めていく。また目的に応じ、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読む力を伸ばす。
- 5 「言語についての知識・理解・技能」
 - ・学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を確実に習得するとともに、文章の中での的確に使う力を伸ばす。

具体的な授業改善策

- 1 ・一人一人が意見をもてるように、自分の考えをノート等を書く時間を必ず確保する。その上で、意欲的な話し合い活動ができるように指導する。
- 2 ・学習過程の中に、児童相互の話し合い活動を意図的、計画的に取り入れる。
- 3 ・毎日の自主学習として、各週でテーマを変えながら200文字程度の日記を書かせ、書く楽しさを味わわせると共に相手を意識した文章を書く習慣を身に付けさせる。
- 4 ・読書活動を充実させ、文章に触れる機会をより多く設ける。
 - ・中心となる文章や段落相互の関係を考えて読む指導を重点的に行う。
- 5 ・毎週のミニ漢字テストを行うことで、既習漢字を確実に身に付けさせる。
 - ・意識して既習漢字を使う習慣を身に付けさせるために、作文の推敲などで国語辞典を活用する。

評価・修正（年度末）

第4学年 算数科

教科の目標

算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技術を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「算数への関心・意欲・態度」
 - ・高い意欲をもって学習に取り組んでいるが、やや難しい問題に出会うと諦めてしまう場面も見られるので、考える楽しさを味わわせる。
- 2 「数学的な考え方」
 - ・基礎的な計算力が身につけているので、計算の正確性を高めるとともに、数学的な思考を伴う問題に対しても柔軟に取り組める基礎力を養う。
- 3 「数量や図形についての技能」
 - ・単位の関係性や面積、体積などの図形の計算法則を自分の言葉で説明できる能力を伸ばす。
- 4 「数量や図形についての知識・理解」
 - ・かけ算、わり算の筆算、小数や分数の仕組みについての考え方を理解し、その仕組みを活用できる力を伸ばす。

具体的な授業改善策

- 1 ・基礎的な計算プリントなどを利用し、スモールステップで学習を進めることで自信をもたせ、応用問題にも活用できる、生きた知識を教える授業づくりを行う。
- 2 ・四則計算の基礎基本の復習を行いながら、文章問題や応用問題に取り組ませる。
 - ・グループ活動を設定し、考えを交流する中で思考を深めていく場面を多く設定する。
- 3 ・数直線、図、グラフ、式などを用いて、自分の言葉で考えを説明する活動を多く取り入れる。
 - ・単位の換算や面積の求め方の意味についてじっくり考える機会を多く取り入れる。
- 4 ・かけ算、わり算の筆算、小数や分数の仕組みについて、生活場面とつなげて考えさせ、活用できるようにする。その仕組みの説明や仕組みを使った問題づくり等を行わせ習熟を図る。

評価・修正（年度末）

第4学年 理科

教科の目標

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「自然事象への関心・意欲・態度」
 - ・ 自然事象を追求し、自ら課題を見出す力を伸ばす。
- 2 「科学的な思考・表現」
 - ・ 自然の事物・現象の変化とその要因とを関連付けて考えられる能力を伸ばす。
 - ・ 課題について既習事項や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力を伸ばす。
- 3 「観察・実験の技能」
 - ・ 実験器具を正しく使う力や、結果を見通した実験計画を立案する力を伸ばす。
 - ・ ノート、観察カードに必要な情報を整理して記録する技能を伸ばす。
- 4 「自然事象についての知識・理解」
 - ・ 基礎基本の知識の定着を図り、その知識を次の課題の解決に用いようとする力を伸ばす。
 - ・ 実験用具の名称、および科学的な用語の定着を図り、正しく使えるようにする。

具体的な授業改善策

- 1 ・ 生活体験に結び付けて考え、理科の有用性が実感できる授業を展開する。
 - ・ 課題を追究していく中で、疑問を見つける習慣を身に付けさせ、実験・観察をとした活動を重視し、解決していけるようにする。
- 2 ・ 問題解決型学習を中心に問題⇒予想⇒実験⇒結果⇒考察の流れを定着させ、事象を正しく見取る力、根拠を説明する力を付ける。
- 3 ・ 正しい器具の取り扱い方をくり返し指導し、基礎的な器具の使い方を確実に身に付けさせる。
 - ・ 結果を予想する活動を重視し、観察・実験の計画を主体的に立てる学習場面を設ける。
- 4 ・ 基礎的・基本的な知識を確実に定着させるとともに、得られた知識を基に、次の課題を発見したり、新たな視点で自然の事物・現象を把握したりする学習場面を設ける。

評価・修正（年度末）

第4学年 社会科

教科の目標

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「社会的事象への関心・意欲・態度」
 - ・地域社会の一員としての自覚をもつと共に、地域社会に対する愛情を育てる。
 - ・地域で働く人たちと密に関わり、自分なりの課題を自分で解決していこうという気持ちを重点的に伸ばす。
- 2 「社会的な思考・判断・表現」
 - ・地域の諸問題や、地域を支えてくれる人について調べ学習を進め、新聞やパワーポイントなどにまとめ、分かりやすく表現したり、発表したりできる力を伸ばす。
- 3 「観察・資料活用の技能」
 - ・地図やグラフ、各種の資料を正確に読み取ると共に、課題に対して必要な情報はどれかを、自分で選択して活用できる力を伸ばす。
- 4 「社会的事象についての知識・理解」
 - ・母島での仕事の様子と内地での仕事の様子を比較することで、広がりをもった知識につなげていく。

具体的な授業改善策

- 1 ・児童の興味・関心のある事象を基に学習課題の設定をすると共に、明確な目的をもたせた上で社会科見学やインタビュー活動をより多く取り入れていく。
- 2 ・「誰に、何を、どのように発表するか」を意識させた導入から学習を進めていく。学級内、他学年、保護者へと学習内容に応じて発表の相手を変えて、場や人に応じた表現の工夫を考えさせる。
- 3 ・様々な図やグラフ、資料の読み取り方を学ぶ中で、どのような状況でその情報が使えるのかを指導していく。
- 4 ・消防署やごみ処理場等については、映像を使って内地と母島の違いを考えさせたり、同じ特徴をまとめさせたりして、私たちの生活を支えている仕事の大きな流れをつかませる。

評価・修正（年度末）

第4学年 音楽科

教科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「音楽への関心・意欲・態度」
 - ・少人数で音楽を作るという難しい環境の中で、声を合わせて歌う楽しさや、器楽合奏の面白さを感じさせ、自ら進んで表現しようとする意欲を育てる。音楽経験を生かして生活を明るく、潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- 2 「音楽表現の創意工夫」
 - ・歌詞の内容や楽曲が現す情景を想像しながら、曲想にふさわしい歌い方を考えて、思いや意図をもって音楽をつくる力を伸ばす。
- 3 「音楽表現の技能」
 - ・楽譜から読み取ったことを歌や楽器の演奏の中でふさわしく表現できる技能を育てる。
- 4 「鑑賞の能力」
 - ・「音楽を形づくっている要素」のかかわり合いや、それによって醸し出される曲想を感じ取り、味わう能力を伸ばす。

具体的な授業改善策

- 1 ・お腹の使い方を意識しやすい発声法を用い、継続的に発声練習をすることで気持ちよく声を出すポイントを見付けさせる。
 - ・声と声、声と楽器、楽器と楽器とが響き合う美しさを感じさせるために、積極的に二重唱や合奏をする機会を設ける。
- 2 ・歌詞を音読して内容を理解し、曲想や音楽を形づくっている要素の働きを感じ取って、曲に合った歌い方を自分なりに考える活動を意図的・計画的に行う。
- 3 ・音楽記号のフラッシュカードを用いて、繰り返し意味を当てる経験を積む。
 - ・歌唱表現の際、また器楽表現の際に、演奏上工夫するポイントを決めて演奏させる。
- 4 ・「音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズ）」と音楽とのかかわりを知り、楽曲のよさや特徴を捉え、聞き手に伝わる言葉で説明させる。

評価・修正（年度末）

第4学年 図画工作科

教科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「造形への関心・意欲・態度」
 - ・ 図工の授業を楽しみながら取り組み、つくりだす喜びを感じることができる。授業中の説明、制作、片付けの場面にめりはりをつけ、積極的に活動に取り組む態度を身に付けさせる。
- 2 「発想や構想の能力」
 - ・ 自身の発想や構想を活かして制作に取り組むことができる。よりよい作品を作り出すために、発想を広げ、目的や用途に合わせて構想を練る力を伸ばす。
- 3 「創造的な技能」
 - ・ 様々な道具を目的に合わせて活用することができる。道具の使い方を理解し、安全に留意して制作する技術を身に付けさせる。
- 4 「鑑賞の能力」
 - ・ 仲間の作った作品や参考作品などを鑑賞し、感想をもち作品に親しむことができる。児童同士の相互鑑賞通し、表現意図を感じ取り、互いを認め合う活動を充実させる。

具体的な授業改善策

- 1 ・ 様々な手法で作品制作を行い、絶えず造形への興味を高めていく工夫をする。
 - ・ 制作時間や後片付けの時間を黒板に記入し、児童が時計を見て計画的に制作できる環境を整備する。
- 2 ・ 教科書だけでなく資料を活用して作品の例を示し、その内容を深めていく。
 - ・ 発想を深めるために、アイディアスケッチの段階で目的や用途を意識させ、デザインだけでなく文章等でも自身の考えをまとめさせる。
- 3 ・ 既習の道具であっても基礎的な扱い方をその都度確認する。
 - ・ その題材に対してどのような活用ができるか例を示し、安全面で配慮すべき事項を徹底する。
- 4 ・ お互いの作品のもつよさや美しさを感じ取らせるために、作品発表の時間を設ける。
 - ・ プリントを活用し、作品の感想をまとめ相手に伝える活動を通して、視点や表現に気付かせる。

評価・修正（年度末）

成果

課題

第4学年 体育科

教科の目標

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

伸ばしたい力（観点別）

1 「運動や健康・安全への関心・意欲・態度」

- ・様々な運動に対して、意欲的に取り組んでいる。友達と教え合ったり、協力し合ったりする楽しさを追求しようとする意識をより伸ばす。

2 「運動や健康・安全についての思考・判断」

- ・ルールを守り、仲間を意識しながら運動に取り組むことができている。それぞれの運動の中で、ルールや作戦、場の工夫を考えて取り組む力を伸ばす。

3 「運動の技能」

- ・「器械運動」「用具を操作する運動」に対して、経験が少ないので、運動経験を積ませる。
- ・長距離走や縄跳びなど長時間粘り強さを必要とする運動技能を伸ばす。

具体的な授業改善策

- 1・ICT機器を用いて、自分の動きや友達の動きを映像で見ることによって、よい動きを考えさせる。
 - ・毎回の授業の中で5分間、技能のポイントを絞った教え合いの時間を設けることで、お互いに高め合える場を作る。
- 2・ベースボール型、ゴール型ゲームの運動の中で、話し合いによるルール作成を経験させたり、チームのメンバーと場の工夫について話し合ったりする機会を設ける。
- 3・マット運動・鉄棒・長縄・フラフープなどを中心に、用具を上手く操作したり、体の動かし方を考えたりする運動をサーキット形式で効果的に指導していく。
 - ・筋持久力を高められるよう、体幹トレーニングを多く取り入れて指導する。

第4学年 総合的な学習の時間

教科の目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

伸ばしたい力（観点別）

1 「関心・意欲・態度」

- ・小笠原の自然環境や人的資源の豊かさに気付き、興味をもって自分で課題を見付けていく力を伸ばす。

2 「課題解決能力」

- ・調べ学習や施設見学、インタビューやインターネットなど様々な方法の中で、自分の課題を追求し考えを深めやすい方法はどれかを考え選択していける力を伸ばす。

3 「コミュニケーション力」

- ・自分の課題を解決するために、進んで友達と話し合ったり、情報を共有したりできる力を伸ばす。
- ・さらに小笠原に誇りを持ち、その良さを周りに工夫して周りに発信できる力を伸ばす。

具体的な授業改善策

- 1・意欲を高め、自主的に学習を進めていけるよう、学習課題や学習計画を自分で考えさせる。
 - ・体験活動の目的を明確にして、学んだ知識を生活の中でどう生かしていけるのかを考えさせる。
- 2・書物による調べ学習、現地での実地調査、インタビュー、インターネットの活用、実験などを使って、情報を収集し、それを分析するなどの思考力を育てる。北村調べやロース石調べを通じて、課題を調べ深めるための情報を得るために、どのような方法がよいかを選択できるようにする。
- 3・アオウミガメや母島の歴史について調べたことを他の学校に発表する事で、小笠原の良さや環境の豊かさなどを再認識させる。
 - ・互いに発表し合う等の交流を通して目的意識、相手意識をしっかりとらせ、情報発信の技能を具体的に支援するなどし、聞き手に分かりやすい情報発信ができるようにする。